乗り越えられる試練しか与えられない

早実生の皆さん、卒業おめでとうございます。振り返れば、この1年間は本当に辛い日々でした。新型コロナウイルス感染拡大によって、様々な行事やイベントが中止となりました。昨年は新学期を休校のまま迎えるという非常事態でした。自宅学習やオンライン授業、時差及び、分散登校などのやり繰り算段で学びの時間を確保した教職員の皆さんを始め、児童、生徒の皆さんにも、並々ならぬ苦心惨憺があったと思います。

　私たち卒業生にとっても、この1年間はシェークスピアの「マクベス」に登場する「明けない夜はない」という科白を何度も思い起こして、呪文のように唱える日々が続きました。

「人は乗り越えられる試練しか与えられない」といわれています。いま人類は、この試練の真っただ中から再生を計ろうとしています。

卒業生の皆さんも、「何でこんな大事な時に自分たちは災厄に襲われたんだろう」というマイナス思考ではなく、「自分たちは、この試練を乗り越えるために選ばれた人間なんだ」というプラス思考を持って、物事に立ち向かっていってもらいたいと思います。

　その堅い意思のバックボーンとなるものは、我が母校早実の校是校訓となる「去華就実」と「三敬主義」であることはいうまでもありません。「去華就実」は、上部だけの華やかなものを捨て、実を取る。「三敬主義」は、他者を敬し、己を敬し、事物を敬する。もう改めて、ここで説明する必要もありませんが、苦難に直面したら、まずこの2つの言葉を思い浮かべてみてください。苦難の時だからこそ、特に卒業生の皆さんには、世のため、人のため、それこそスポーツマン・シップとフェアプレー精神を持って行動してもらいたいと思います。そうすれば、長いトンネルの向こうに必ずや一筋の光が見えてくるはずです。

「明けない夜はない」。この言葉を信じて明日を迎えてもらいたいと思います。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　昭和51年卒、校友会会長・池田哲雄